

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第 24 号 (平成 25 年 2 月発行)

さる 12 月 20 日 (木) に平成 24 年第 4 回定例会が開会され、同月 27 日 (木) に一般質問が行われ、議案 3 件が可決され閉会しました。

今回は、水谷正美議員 (三重県議会選出)、野呂泰治議員 (四日市市議会選出) の二人が四日市港港湾行政に関する質問を行い、管理組合執行部に答弁を求めました。

主な質問・答弁要旨

水谷正美 議員



○ **パブリックアクセスとは、水辺空間と交通拠点とのネットワーク等、人が水際で憩うための 5 つのアクセス要素のことであるが、これらについて四日市港ではどのような状況であると考えられるのか、またそれらの視点を指標化して取り組んでいく必要があると考えるが、見解を伺いたい。**

◎ 管理組合では、千歳運河物揚場を親しみのある緑地空間として緑地へ利用転換するための検討を行っており、市においても中心市街地から旧港へ向けた案内表示の設置等が行われるなど課題である港へのアプローチの改善を進めています。また、こうしたハード施策に加えて四日市港まつり等のイベントを開催し、港と触れ合う機会の創出に努めています。

なおパブリックアクセスに関する指標化につきましては、この概念が親水性等様々な視点から総合的に捉える概念であることから、総じて定量的に捉えるのは難しいと考えますが、その中でも捉えることができる部分については、一度検討させていただきたいと思えます。

野呂泰治 議員



○ **アジア太平洋時代の中の四日市港の姿、役割について、港湾法の改正等、様々な制度の変更や、それに伴う港の運営の仕方が変わってきている中で、伊勢湾港としての四日市港が、将来的にどのように生き延び、また運営していくのか伺いたい。**

◎ 四日市港は後背地に集積している産業を支えるべく、バルク・コンテナ・完成自動車等取り扱う総合港湾として、背後圏産業とともに発展してきた港です。

そのため、今後の方向としては、小回りが利き荷主のニーズに柔軟に対応できること、官民が連携して一丸となってポートセールスや港の運営を行っていること等、四日市港の強みを発揮することで、背後圏の物流需要に応えられるよう取り組んでいきます。

このような取り組みを進めていくことにより、港湾間の競争で生き残りを図り、四日市港が今後も背後圏産業とともにさらに発展していけるよう、取り組んでまいります。

※詳細な質問答弁等については、当組合議会ホームページ会議録をご覧ください。